

島根県競技力向上基本計画



令和3年2月3日

島根県競技力向上対策本部

目 次

はじめに ～ 島根県競技力向上基本計画策定の趣旨 ～

第1章 基本的な考え方

- 1 基本計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 基本計画の対象期間と目標・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 3 基本計画の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第2章 島根県の競技スポーツの現状

- 1 島根県の競技力の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (1) 国民体育大会の概要と成績・・・・・・・・・・・・ 5
 - ① 本県の天皇杯・皇后杯の得点と順位の推移・・・・・・・・ 6
 - ② 天皇杯得点1位都県と本県競技得点の推移・・・・・・・・ 7
 - ③ 皇后杯得点1位都県と本県競技得点の推移・・・・・・・・ 7
 - ④ 天皇杯得点と順位の関係及び本県の位置・・・・・・・・ 8
 - ⑤ 獲得可能な最大の競技得点と本県の競技得点・・・・・・・・ 9
 - ⑥ 本県の成年・少年男女別競技得点の推移と比率・・・・・・・・ 10
 - ⑦ 本県ふるさと選手の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - (2) 中学生・高校生の全国大会における入賞者数の推移・・ 11
 - (3) 国際大会の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 2 島根県の競技スポーツを取り巻く環境・・・・・・・・・・・・ 13
 - (1) 本県の競技人口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
 - (2) 児童数及びスポーツ少年団加入率の推移・・・・・・・・ 14
 - (3) 運動部活動の加入状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - (4) 児童・生徒の体力・運動能力の状況・・・・・・・・ 15
 - (5) その他のスポーツ活動の状況・・・・・・・・・・・・ 16
 - ①大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
 - ②総合型地域スポーツクラブ・・・・・・・・・・・・ 16
 - ③企業スポーツ(プロ・アマチュア)・・・・・・・・・・・・ 17
 - (6) 公認スポーツ指導者の状況・・・・・・・・・・・・ 18

第3章 競技力向上に向けた具体的な取組

1	取り組むべき4つの柱	19
2	具体的な競技力向上対策	20
(1)	組織体制の整備・充実	20
(2)	選手の発掘・育成・強化	21
(3)	指導者の養成・資質の向上	23
(4)	選手・指導者を支える環境整備	24

第4章 競技力向上基本計画の推進体制

1	推進体制の整備	25
2	事業実施計画の作成と進捗状況管理	25
3	各競技団体の作成する強化計画の進捗状況管理	25

はじめに ～島根県競技力向上基本計画の策定の趣旨～

本県においては、昭和 57 年（1982 年）に「このふれあいが未来をひらく」をスローガンに第 37 回国民体育大会（くにびき国体）を開催し、天皇杯（男女総合優勝）、および皇后杯（女子総合優勝）を獲得しました。また各競技では、カヌー、バレーボール、バスケットボール、体操、軟式野球、レスリング、馬術、銃剣道、山岳の 9 競技で種目別総合優勝を飾る活躍で県民の期待にこたえました。

しかし、総合順位は、くにびき国体以降急激に下降し、平成 12 年からは 3 年連続最下位となるなど低迷が続き、様々な競技力向上の取組みを進めてきましたが、近年も 40 位台を推移しており、苦戦を強いられている状況です。一方、スポーツの普及・振興、競技力の向上を図るために、本県では、「第 2 期島根県スポーツ推進計画（計画期間：令和 2 年度～6 年度）」を策定し、県民一人ひとりの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて多様なスポーツ活動が実践できる環境の充実、国際大会や国民体育大会などの全国大会において、優秀な成績を収められる選手の育成などに取り組み、県民の健康づくりやスポーツによる地域の活性化を図っていくこととしています。

このような中、本県で令和 12 年（2030 年）に開催が予定されている第 84 回国民スポーツ大会において本県選手が活躍することは、多くの県民に夢や感動を与えるとともに、本県の未来を支える子どもたちのスポーツに対する興味や意欲を高めるほか、活躍した選手が指導者として次世代のトップレベル選手を育成することで、本県競技力の好循環を生み出していくものと確信しています。

このため、本県で開催される第 84 回国民スポーツ大会で天皇杯（男女総合優勝）・皇后杯（女子総合優勝）の獲得を目指すとともに、大会終了後も島根の将来につながる本物の競技力の定着と地域に根ざしたスポーツ振興が継続するように「島根県競技力向上基本計画」を策定するものです。

第1章 基本的な考え方

1 基本計画の位置づけ

この計画は、2030年の第84回国民スポーツ大会における目標達成と大会終了後も持続可能な本県の競技スポーツの振興を目指し、今後の具体的な取組を示した指針とします。

2 基本計画の対象期間と目標

2030年の第84回国民スポーツ大会に向けて計画を着実に推進するためには、明確な目標設定が必要であることから、天皇杯（男女総合優勝）及び皇后杯（女子総合優勝）の獲得を基本計画の目標とします。

また、この計画は、次の4つの期間に区分し、期間ごとに目標を定め、評価、検証を行いながら、計画的に競技力向上事業に取り組みます。

西暦	期間	目標順位 (目標得点)	対策	大会	開催県
2021	育成期	30位台 (850点)	○競技力向上推進体制の構築 対策本部を設置し、総合的な強化体制を整え、競技力向上の基盤整備を行う。	76	三重
2022				77	栃木
2023				特別	鹿児島
2024	充実期	20位台 (1000点)	○競技力向上推進体制の充実 ターゲットエイジの育成・強化、指導者の確保など、強化体制の充実を図る。	78	佐賀
2025				79	滋賀
2026				80	青森
2027	躍進期	10位台 (1150点)	○競技力向上推進体制の確立 候補選手の重点的な強化、会場地と連携を図り、強化体制を確立する。	81	宮崎
2028				82	長野
2029				83	群馬
2030	開催年	1位 (2600点)	○天皇杯及び皇后杯の獲得 選手、監督、関係者をはじめ、島根県民が一体となって総合優勝を達成する。	84	島根
2031以降	継続期	20位台の保持 (1000点)	○レガシーの活用による競技力の定着 第84回国民スポーツ大会終了後も、安定した競技力の維持・継続ができるよう強化体制を保持する。		

※2023年に行われる鹿児島国体は特別国体のため、回数が付与されません

3 基本計画の見直し

この計画は、育成期、充実期、躍進期において実施する競技力向上対策事業の進捗状況や成果を分析・評価し、適宜見直しを行います。

第2章 島根県の競技スポーツの現状

1 島根県の競技力の現状

(1) 国民体育大会の概要と成績

国民体育大会は、正式競技の競技得点と参加得点を合計した総合得点で男女総合成績（天皇杯得点）と女子総合成績（皇后杯得点）を競う都道府県対抗方式の大会です。正式競技は、冬期大会3競技（スケート、アイスホッケー、スキー）と本大会37競技（陸上競技、水泳、サッカー 他）を合わせた40競技で実施されます。

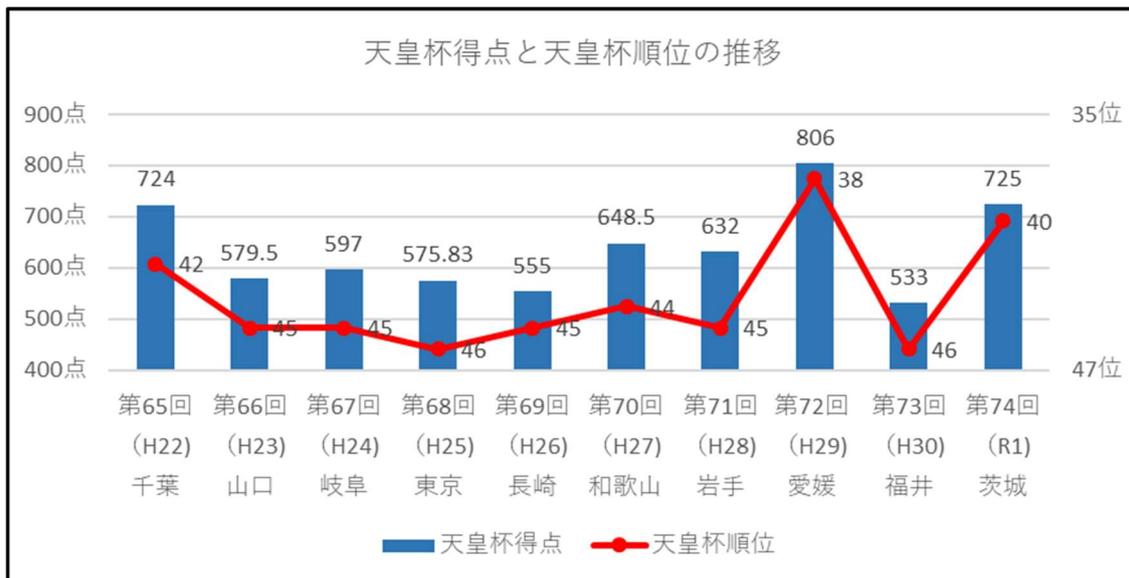
競技得点は、各種別、種目等の第1位から第8位までの都道府県に与えられます（下表参照）。ただし、同順位の場合は、次の順位のものに加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第3位を切り捨てます。

区分	人数	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
種別	4人以下	24点	21点	18点	15点	12点	9点	6点	3点
	5人以上7人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	5点
	8人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	8点
種目	—	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

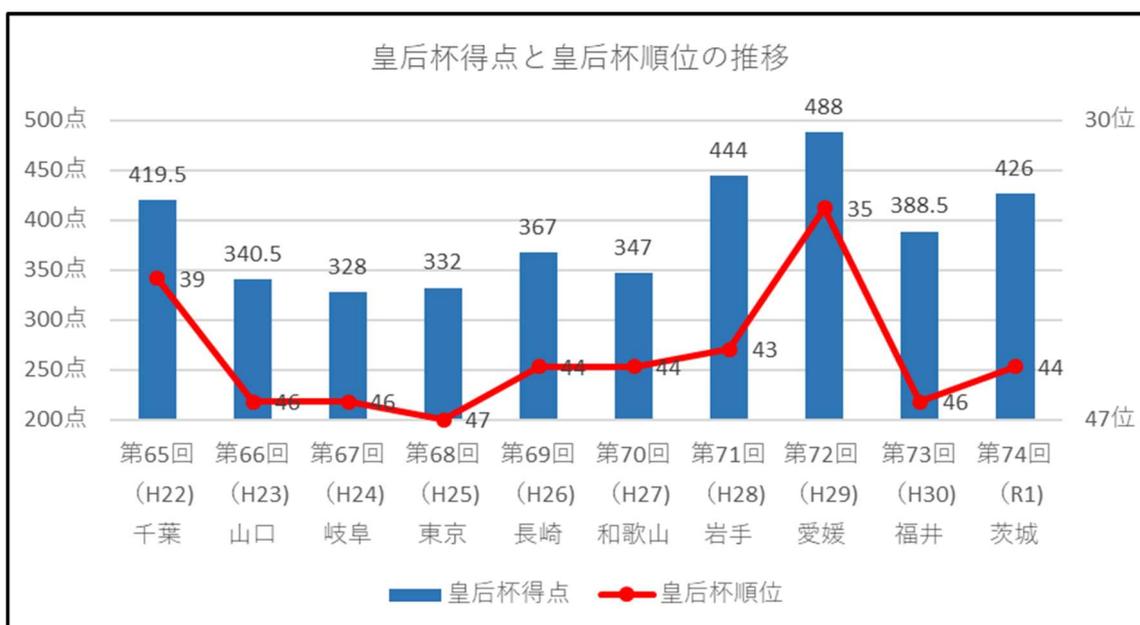
参加得点は、大会（ブロック大会含む）に参加した都道府県に1競技につき10点が与えられます。全競技参加すると、400点が参加得点として加算されます。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えられません。

なお、国民体育大会は、2024年の佐賀大会から国民スポーツ大会に名称が変更されます。

①本県の天皇杯・皇后杯の得点と順位の推移

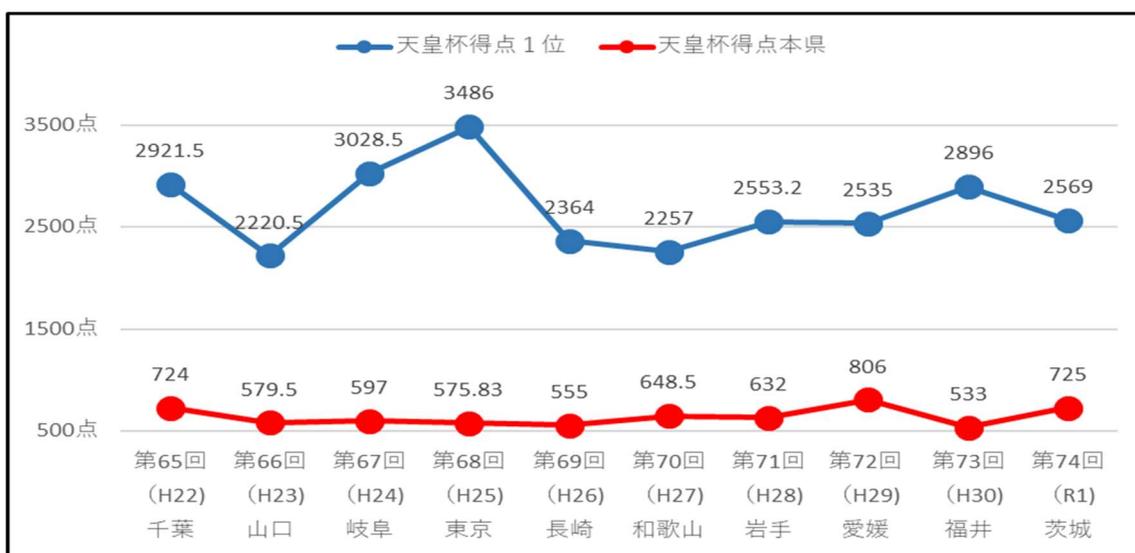


第72回愛媛国体では、得点の計算方法が変更となった第43回大会以降、最高の806点を獲得しました。また、その時の天皇杯順位は38位で、第49回愛知国体の36位を含めて30位台は2大会のみとなります。



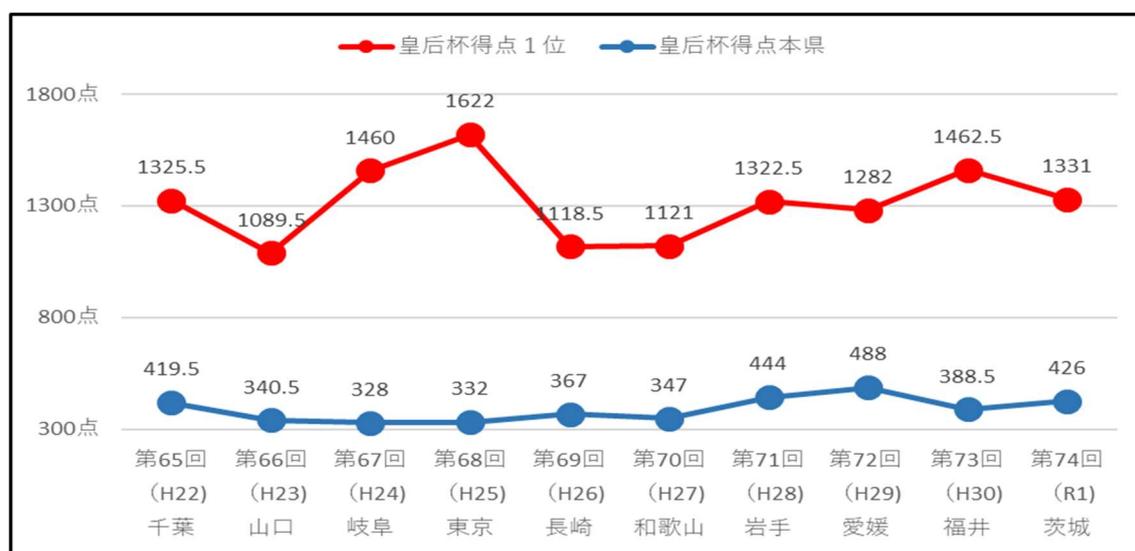
皇后杯得点は、第71回岩手国体から新たな種目(ラグビーフットボール、自転車トラックレース、ウェイトリフティング、レスリング、ボクシング、トライアスロン)が実施され、参加得点が60点増加したため、皇后杯得点が増加していますが、第65回千葉国体及び第72回愛媛国体を除き、皇后杯順位は40位台と低迷しています。

②天皇杯得点1位都県と本県競技得点の推移



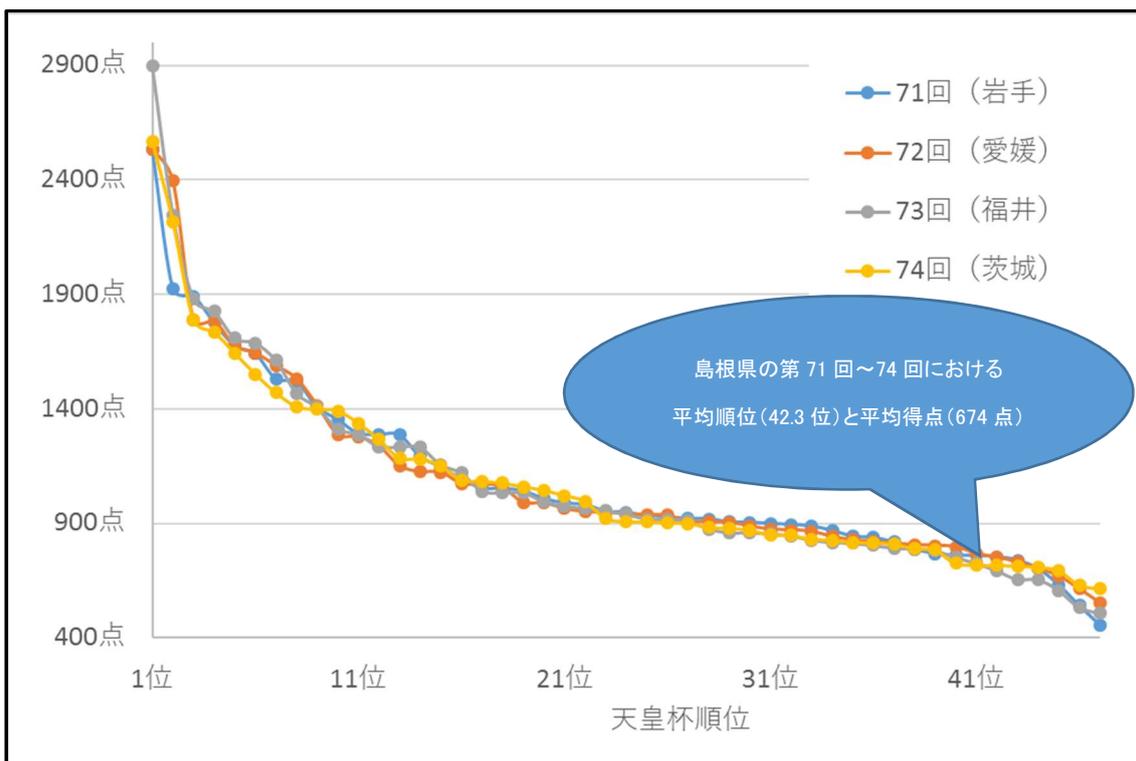
天皇杯の得点は、平成25年東京国体で優勝した東京都が3,486点で最も高く、平成23年山口国体で優勝した山口県が2,220.5点と最も低くなっています。過去10大会の本県の平均得点は637.6点で、天皇杯獲得都県の平均(2,683.1点)との差は、2,045.5点です。

③皇后杯得点1位都県と本県競技得点の推移



皇后杯の得点は、平成25年東京国体で優勝した東京都が1,622点で最も高く、平成23年山口国体で優勝した山口県が1,089.5点と最も低くなっています。過去10大会の本県の平均得点は388.1点で、皇后杯獲得都県の平均(1,313.5点)との差は、925.4点です。

④天皇杯得点と順位の関係及び本県の位置



過去 4 大会における天皇杯得点と順位の推移をみると、天皇杯獲得都県と 2 位の都県は、概ね 2,000 点を超える天皇杯得点を獲得しています。それに次ぐ 3 位以下から 10 位台の道府県は、順位間での得点の開きが大きいですが、20 位台と 30 位台の県は、順位間での開きが縮まる傾向にあります。

本県の過去 4 大会の天皇杯順位の平均は 42.3 位で、天皇杯得点の平均は 674 点です。参加得点の獲得可能最大値である 400 点を除くと、天皇杯獲得都県と本県の競技得点はおおよそ 7 倍の開きがあります。

⑤獲得可能な最大の競技得点と本県の競技得点

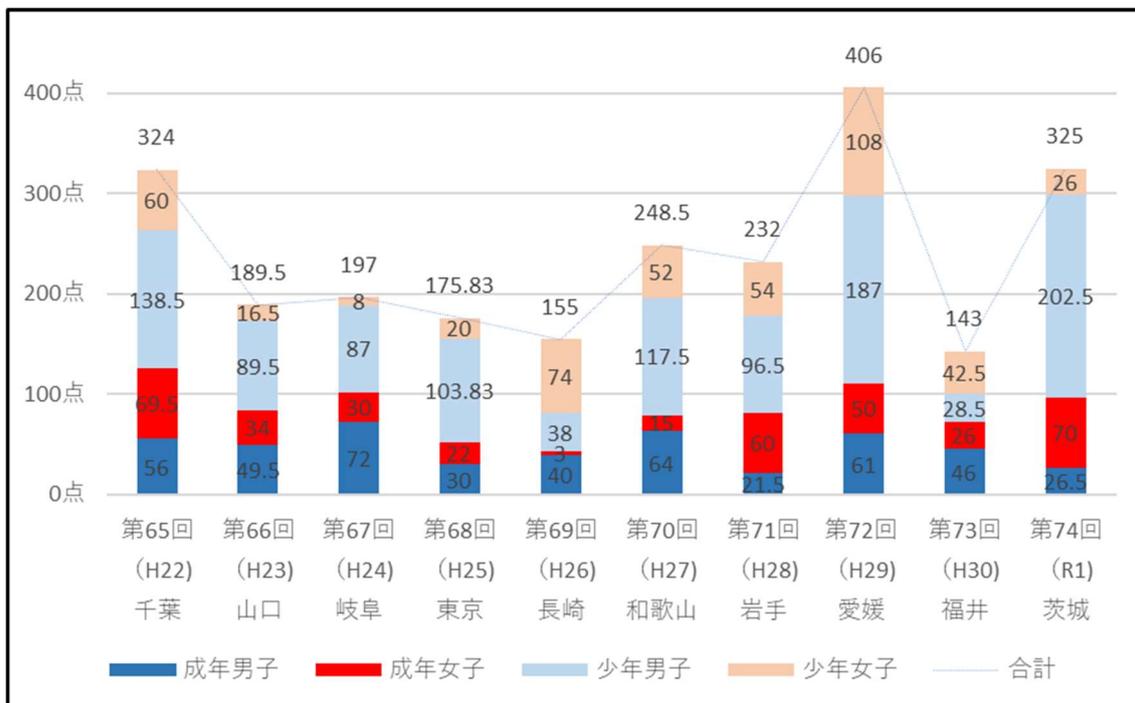
競技名 (高得点順)	獲得可能な 最大得点 (前年度大会)	過去5大会(島根県)										過去5大会(1位獲得都道府県)									
		第70回 和歌山 (H27)	第71回 岩手 (H28)	第72回 愛媛 (H29)	第73回 福井 (H30)	第74回 茨城 (R1)	平均		最高時		第70回和歌山 (H27) 1位：和歌山	第71回岩手 (H28) 1位：東京	第72回愛媛 (H29) 1位：東京	第73回福井 (H30) 1位：福井	第74回茨城 (R1) 1位：茨城						
		得点	得点	得点	得点	得点	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合			
1 水泳	616	13	22	20	0	8	12.6	2.0%	22	4%	71	11.5%	320.5	52.0%	369	59.9%	33.5	5.4%	94.5	15.3%	
2 スケート	519	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	36	6.9%	76	14.6%	83	16.0%	76	14.6%	105	20.2%	
3 陸上競技	448	34	20	18	8	14	18.8	4.2%	34	8%	55	12.3%	123	27.5%	108.5	24.2%	55	12.3%	66.5	14.8%	
4 スキー	324	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	0	0.0%	14	4.3%	0	0.0%	24	7.4%	37	11.4%	
5 カヌー	304	20	72	37	15	49	38.6	12.7%	72	24%	100	32.9%	72	23.7%	60	19.7%	93	30.6%	50	16.4%	
6 ボート	288	21	0	9	16	9	11	3.8%	21	7%	71	24.7%	108	37.5%	139	48.3%	264	91.7%	2.5	0.9%	
7 ホッケー	256	108	20	160	20	48	71.2	27.8%	160	63%	164	64.1%	0	0.0%	0	0.0%	196	76.6%	80	31.3%	
ソフトボール	256	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	40	15.6%	0	0.0%	20	7.8%	124	48.4%	80	31.3%	
9 ボウリング	226	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	37	16.4%	36	15.9%	54	23.9%	30	13.3%	18	8.0%	
10 体操	216	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	90	41.7%	80	37.0%	95	44.0%	150	69.4%	113	52.3%	
11 自転車競技	214	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	92	43.0%	33	15.4%	60	28.0%	102	47.7%	94	43.9%	
12 バレーボール	208	0	0	0	0	31.5	6.3	3.0%	31.5	15%	0	0.0%	105	50.5%	136.5	65.6%	33	15.9%	85	40.9%	
サッカー	192	0	0	0	20	0	4	2.1%	20	10%	48	25.0%	40	20.8%	0	0.0%	64	33.3%	120	62.5%	
13 弓道	192	0	0	0	13.5	0	2.7	1.4%	13.5	7%	15	7.8%	12	6.3%	6	3.1%	24	12.5%	9	4.7%	
柔道-フカヤミギ	192	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	12	6.3%	51	26.6%	66	34.4%	75	39.1%	96	50.0%	
16 馬術	184	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	59.5	32.3%	84.5	45.9%	40	21.7%	82	44.6%	121	65.8%	
17 ライフル射撃	168	2	0	9	0	15	5.2	3.1%	15	9%	24	14.3%	49	29.2%	45	26.8%	61	36.3%	26	15.5%	
バスケットボール	160	0	0	0	0	12.5	2.5	1.6%	12.5	8%	12.5	7.8%	67.5	42.2%	47.5	29.7%	0	0.0%	75	46.9%	
18 ハンドボール	160	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	25	15.6%	25	15.6%	12.5	7.8%	47.5	29.7%	112.5	70.3%	
ソフトテニス	160	0	25	35	0	0	12	7.5%	35	22%	80	50.0%	70	43.8%	40	25.0%	25	15.6%	0	0.0%	
バドミントン	160	11	4	1	0	9	5	3.1%	11	7%	55	34.4%	61	38.1%	61	38.1%	87	54.4%	80	50.0%	
22 セーリング	144	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	111	77.1%	24	16.7%	34	23.6%	59	41.0%	27	18.8%	
フェンシング	144	9	0	0	0	0	1.8	1.3%	9	6%	60	41.7%	48	33.3%	81	56.3%	57	39.6%	21	14.6%	
剣道	144	0	0	0	0	12.5	2.5	1.7%	12.5	9%	134	93.1%	35	24.3%	42.5	29.5%	124	86.1%	144	100.0%	
ラグビーフットボール	144	28	25	79	0	64	39.2	27.2%	79	55%	30	20.8%	81	56.3%	68	47.2%	55	38.2%	60	41.7%	
26 レスリング	128	0	5	5	23.5	8	8.3	6.5%	23.5	18%	56.5	44.1%	29.5	23.0%	53	41.4%	43	33.6%	40.5	31.6%	
27 柔道	120	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	60.5	50.4%	87.5	72.9%	92.5	77.1%	12.5	10.4%	12.5	10.4%	
空手道	120	2.5	0	0	0	2.5	1	0.8%	2.5	2%	84	70.0%	52	43.3%	50	41.7%	111	92.5%	76.5	63.8%	
29 テニス	96	0	6	15	0	0	4.2	4.4%	15	16%	24	25.0%	39	40.6%	60	62.5%	24	25.0%	21	21.9%	
卓球	96	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	7.5	7.8%	36	37.5%	31.5	32.8%	40.5	42.2%	28.5	29.7%	
バドミントン	96	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	0	0.0%	28.5	29.7%	15	15.6%	36	37.5%	46.5	48.4%	
アーチェリー	96	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	39	40.6%	39	40.6%	57	59.4%	30	31.3%	15	15.6%	
なぎなた	96	0	33	18	21	42	22.8	23.8%	42	44%	90	93.8%	69	71.9%	9	9.4%	75	78.1%	66	68.8%	
34 ボクシング	80	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	37.5	46.9%	29	36.3%	28.5	35.6%	36.5	45.6%	25	31.3%	
アイスホッケー	80	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	0	0.0%	40	50.0%	25	31.3%	15	18.8%	0	0.0%	
36 ゴルフ	72	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	6	8.3%	7.5	10.4%	0	0.0%	45	62.5%	42	58.3%	
37 軟式野球	64	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	40	62.5%	56	87.5%	
相撲	64	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0%	15	23.4%	0	0.0%	0	0.0%	7.5	11.7%	12.5	19.5%	
39 銃剣道	48	/	/	/	/	/	/	0.0%	0	0%	6	12.5%	/	/	0	0.0%	/	/	/	/	
グレー射撃	48	0	0	0	6	0	1.2	2.5%	6	13%	9	18.8%	42	87.5%	45	93.8%	18	37.5%	3	6.3%	
41 トライアスロン	30	/	/	/	/	/	/	0.0%	0	0%	/	/	18	60.0%	/	/	21	70.0%	7	23.3%	
合計	7,363	248.5	232	406	143	325	270.9	3.7%	637	9%	1857	25.3%	2132.5	29.0%	2135	29.0%	2496	33.9%	2169	29.5%	
入賞競技数		10	10	12	9	14	11		14		35		36		33		39		38		
2位都道府県の状況											1652.5	22.5%	1524	20.7%	1995.5	27.1%	1846	25.1%	1817	24.7%	

過去5大会の平均獲得競技得点は、獲得可能な最大の競技得点の3.7%ですが、過去5年間の最高成績が単年度に重なったと仮定した場合、上記割合は9%となり、競技得点は637点となります。この得点は、天皇杯順位20位前後に相当します。

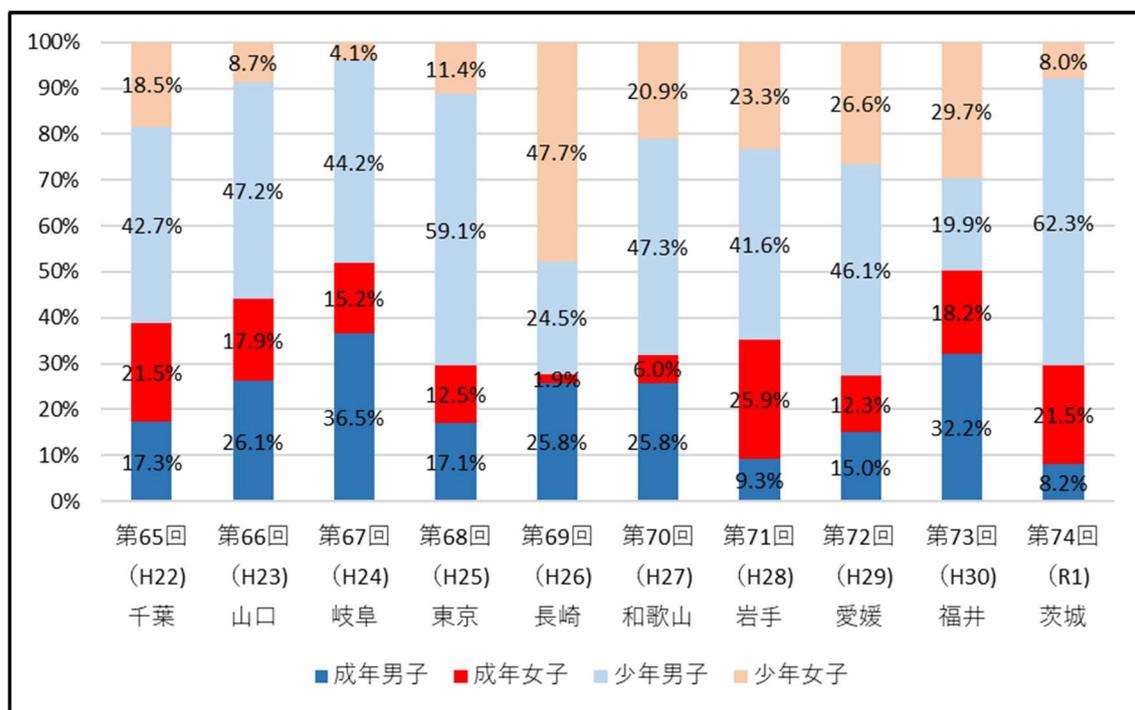
※斜線部は、隔年開催競技のため、競技が開催されていません。

⑥本県の成年・少年男女別競技得点の推移と比率

〔推移〕



〔比率〕



過去10年間の大会の競技得点の内訳は、成年種別が約35%、少年種別が約65%を獲得しており、少年種別の活躍が目立ちます。また各種別では、成年男子19.5%、成年女子15.9%、少年男子45.4%、少年女子19.2%となっており、少年男子の活躍が目立ちます。

⑦本県ふるさと選手の状況

年	回（開催地）	出場人数			入賞種目数			競技得点		
		ふるさと	成年全体	割合	ふるさと	成年全体	割合	ふるさと	成年全体	割合
R1	第74回（茨城）	61	129	47.3	8	11	72.7	63.5	96.5	65.8
H30	第73回（福井）	46	114	40.4	5	7	71.4	48.0	72.0	66.7
H29	第72回（愛媛）	44	124	35.5	7	9	77.8	107.0	111.0	96.4
H28	第71回（岩手）	43	155	27.7	5	11	45.5	43.5	81.5	53.4
H27	第70回（和歌山）	35	117	29.9	6	7	85.7	76.0	79.0	96.2
H26	第69回（長崎）	25	123	20.3	2	6	33.3	31.0	43.0	72.1
H25	第68回（東京）	31	112	27.7	3	5	60.0	2.0	52.0	3.8
H24	第67回（岐阜）	35	138	25.4	4	10	40.0	66.5	102.0	65.2
H23	第66回（山口）	41	118	34.7	3	11	27.3	33.0	83.5	39.5
H22	第65回（千葉）	39	139	28.1	9	14	64.3	61.0	125.5	48.6
平均		40.0	126.9	31.7	5.2	9.1	57.8	53.2	84.6	60.8

ふるさと選手制度とは、成年種別に参加する選手が、居住地又は勤務地に問わず、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県から参加できる制度のことです。第76回大会以降は卒業小学校の所在地も含まれます。

過去10年間の大会では成年選手の約3割がふるさと選手で、ふるさと選手が出場した競技が成年種別の約6割の競技得点を獲得しています。

（2）中学生・高校生の全国大会における入賞者数の推移

大会名	開催年度・年													R 元
	H 19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
全国中学校体育大会	8	6	5	20	11	15	11	9	11	15	11	7	6	
全国高等学校体育大会	11	13	6	10	16	15	18	12	17	29	13	12	20	
全国高等学校選抜大会	9	11	9	1	8	11	8	14	11	15	14	8	1	
国民体育大会少年の部	12	12	11	15	14	10	17	17	19	14	22	15	24	
総 数	40	42	31	46	49	51	54	52	58	73	60	42	51	

※令和2年3月開催の全国高校選抜大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため大会中止となりました。

中学生・高校生の全国大会での入賞数は、ここ数年は増加傾向にあり、ジュニア選手の競技力向上の取組の成果が現れているものの、年によってばらつきがあることから、安定した競技力の向上を図る必要があります。

また、中国ブロックで開催された中学校や高等学校の全国大会に向けて強化を進めた結果、地元開催となった平成22年度全国中学校体育大会、及び平成28年度全国高等学校体育大会では多くの入賞がありました。

(3) 国際大会の状況

島根県にゆかりのある選手の国際大会出場状況

年	競技名	氏名 (当時所属 出身校)	大会名 (開催地)	種目等	成績等
2019	なぎなた	安喰 愛 (島根県体育協会)	第7回世界なぎなた選手権大会 (ドイツ)	個人試合	優勝
		井上 美代 (出雲北陵高校教諭)		演技	優勝
		原 綾海 (武庫川女子大学 出雲農林高校出身)		演技	優勝
	カヌー	大野 陽子 (コマツ 浜田市立第一中学校出身)	世界カヌースプリント選手権 (ハンガリー)	K4女子500m	出場
柔道	大野 陽子 (コマツ 浜田市立第一中学校出身)	第37回世界柔道選手権大会 (東京)	男女混合団体	優勝	
2018	ホッケー	山崎 晃嗣 (滋賀クラブ 横田高校出身)	第18回アジア大会 (インドネシア)	男子	優勝
		福田 健太郎 (岐阜朝日クラブ 横田高校出身)			
		落合 大将 (リーベ栃木 横田高校出身)			
		田中 世蓮 (岐阜朝日クラブ 横田高校出身)			
		膳棚 大剛 (天理大ベアーズ 横田高校出身)			
		石橋 唯今 (南都銀行 横田高校出身)			
		景山 恵 (ソニー 横田高校出身)			
		錦織 えみ (コカ・コーラ 横田高校出身)			
	加藤 彰子 (コカ・コーラ 横田高校出身)				
	柔道	佐々木 健志 (筑波大学 平田高校出身)			男子81kg級
ラグビー フットボール	黒木 理帆 (立正大学 石見智翠館高校出身)		女子	優勝	
柔道	大野 陽子 (コマツ 浜田市立第一中学校出身)	第36回世界柔道選手権大会 (アゼルバイジャン)	女子70kg級	3位	
			男女混合団体	優勝	
2016	テニス	錦織 圭 (日清食品 開星中学校出身)	第31回オリンピック大会 (ブラジル)	男子シングルス	3位
	ホッケー	錦織 えみ (コカ・コーラ 横田高校出身)		女子	出場
	レスリング	渡利 璃穂 (アイシン・エイ・ダブリュ 松江市立第一中学校出身)		女子フリースタイル 75kg級	出場
2015	陸上	青山 聖佳 (大阪成蹊大学 松江商業高校出身)	第15回世界陸上選手権大会 (中国)	女子1600m リレー	出場
	なぎなた	安喰 愛 (島根県体育協会)	第6回世界なぎなた選手権大会 (カナダ)	個人試合	2位
		井上 美代 (出雲北陵高校教諭)		演技	優勝
2014	陸上	青山 聖佳 (松江商業高校 3年)	第17回アジア大会 (韓国)	女子400m	5位
		渡利 璃穂 (アイシン・エイ・ダブリュ 松江市立第一中学校出身)		女子1600mリレー	2位
	レスリング	大塚 志穂 (南都銀行 横田高校出身)		女子フリースタイル 63kg級	優勝
	ホッケー	大塚 志穂 (南都銀行 横田高校出身)		女子	4位
2012	テニス	錦織 圭 (日清食品 開星中学校出身)	第30回オリンピック大会 (イギリス)	男子シングルス	5位
	ホッケー	山本 由佳理 (ソニー 横田高校出身)		女子	出場
		大塚 志穂 (南都銀行 横田高校出身)			
2011	なぎなた	安喰 愛 (島根県体育協会)	第5回世界なぎなた選手権大会 (日本)	個人試合	2位
2010	ホッケー	三澤 孝康 (名古屋フラーテル 横田高校出身)	第16回アジア大会 (中国)	男子	6位
		山本 由佳理 (ソニー 横田高校出身)		女子	3位
		大塚 志穂 (天理大学 横田高校出身)			
	バスケット ボール	広瀬 健太 (パナソニックトライアンズ 松江東高校出身)			男子
ボブスレー	浅津 このみ (海野ビル 出雲北陵高校出身)	第21回冬季オリンピック大会 (カナダ)	女子2人乗り	出場	

2 島根県の競技スポーツを取り巻く環境

(1) 本県の競技人口

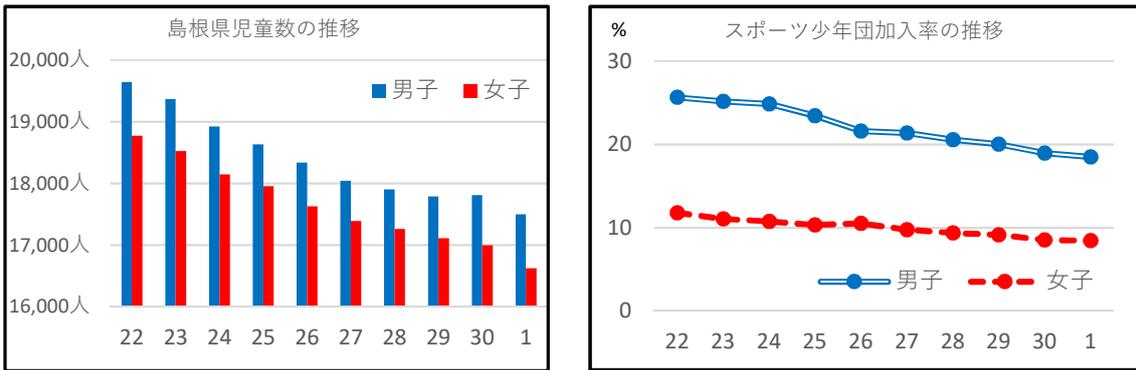
令和元年度 競技団体登録者数

No.	競技団体名	登録人数	No.	競技団体名	登録人数
1	スケート	33	22	相撲	165
2	アイスホッケー	74	23	馬術	25
3	スキー	66	24	フェンシング	75
4	陸上競技	1,155	25	柔道	1,377
5	水泳	549	26	ソフトボール	650
6	サッカー	6,028	27	バドミントン	1,151
7	テニス	1,065	28	弓道	992
8	ボート	168	29	ライフル射撃	40
9	ホッケー	311	30	剣道	2,603
10	ボクシング	20	31	ラグビーフットボール	440
11	バレーボール	4,213	32	山岳	91
12	体操	187	33	カヌー	80
13	バスケットボール	4,231	34	アーチェリー	88
14	レスリング	112	35	空手道	283
15	ヨット	27	36	銃剣道	138
16	ウェイトリフティング	37	37	クレー射撃	70
17	ハンドボール	339	38	なぎなた	70
18	自転車競技	75	39	ボウリング	54
19	ソフトテニス	3,089	40	ゴルフ	935
20	卓球	3,152	41	トライアスロン	139
21	軟式野球	4,942	合計		39,339

(資料提供：公益財団法人島根県体育協会)

サッカー、軟式野球、バスケットボールなどのように十分な競技人口を有する団体がある一方で、競技人口が100人に満たない団体も多く、大きな差があります。

(2) 児童数及びスポーツ少年団加入率の推移

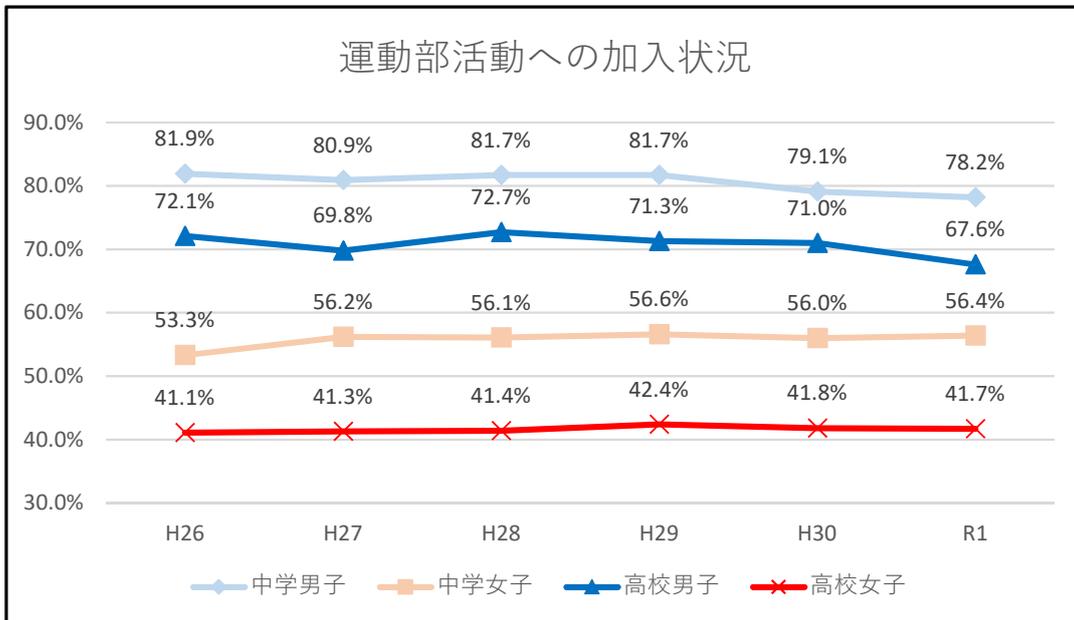


(資料提供：公益財団法人島根県体育協会)

スポーツ少年団の小学生の登録者数は、少子化等の影響を受けて年々減少し、平成22年度は7,251人でしたが、令和元年度には4,640人(△36.0%)となっています。

また、加入率は、平成22年度に男子25.65%、女子11.79%でしたが、令和元年度には男子18.50%(△7.15%)、女子8.45%(△3.34%)となっており、減少傾向にあります。児童数の減少に加え、加入率も低下していることから、競技人口を一定程度確保するためには加入率を上げる必要があります。

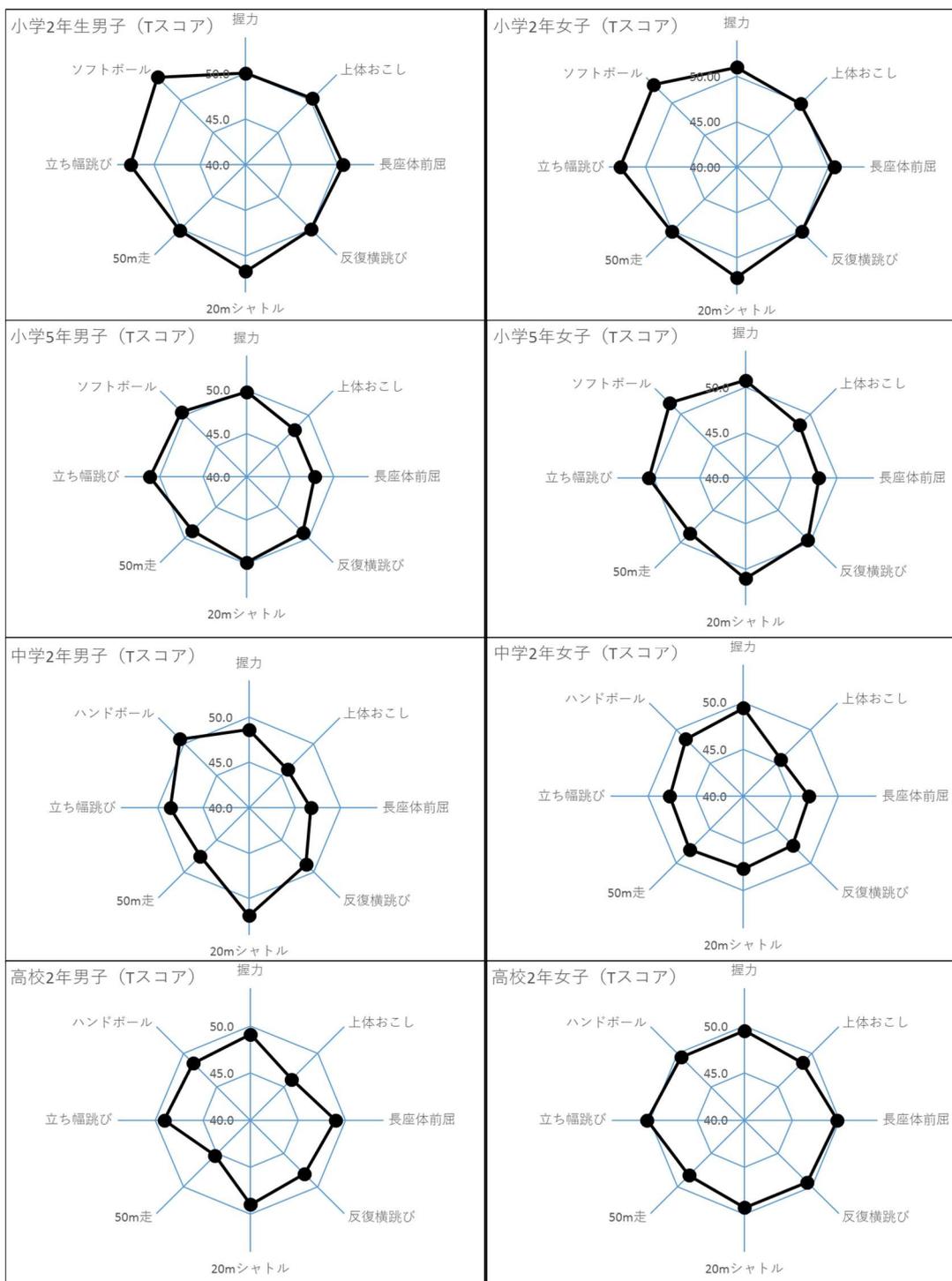
(3) 運動部活動の加入状況



県内の中学校、高等学校の運動部活動への加入状況は、男子の方が女子よりも高く、また中学校の方が高等学校よりも高い状況にあります。

(4) 児童・生徒の体力・運動能力の状況

H30年度の全国平均値を50とした場合のR元年度の島根県児童生徒の偏差値（Tスコア）



小学2年生の時期では男女ともおおむね全国平均値を越えているものの、学年が進むにつれて全国平均値を下回る傾向にあります。

特に上体おこしや50m走などは、小学校2年生を除いてどの学年でも全国平均値を下回っています。

(5) その他のスポーツ活動の状況

①大学

国体に出場する大学生の人数

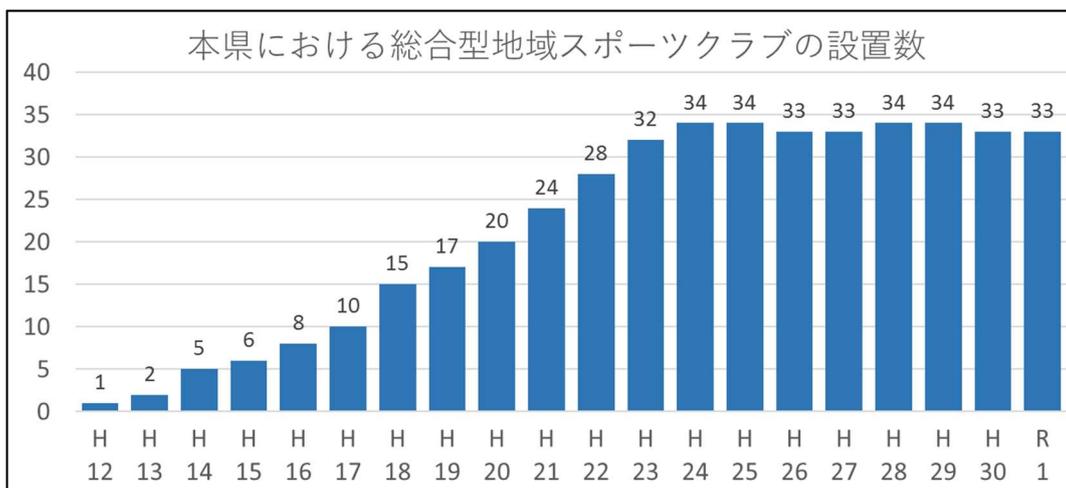
国体開催(年)		70回(H27)	71回(H28)	72回(H29)	73回(H30)	74回(R1)
大学生	県内	6	13	9	7	2
	県外	28	40	41	36	53
	合計	34	53	50	43	55
成年全体		123	155	124	114	129
成年選手に占める大学生の割合(%)		27.6	34.2	40.3	37.7	42.6

本県の成年選手のうち、大学生の割合は過去5年間の平均では36%程度で、大学生全体に対する県内大学生の割合は過去5年間の平均でおよそ16%と極めて少ない現状です。

本県には島根大学と島根県立大学の2校があり、令和2年度現在、国体の正式競技の部活動は、島根大学で25部、島根県立大学の松江キャンパスで3部と浜田キャンパスで12部が活動しています(同好会、サークルを除く)。全国レベルで活躍する実績も少なく、県外大学へ進学して競技を続ける選手の割合が大きいのが特徴です。

②総合型地域スポーツクラブ

本県には令和2年4月現在、33の総合型地域スポーツクラブがあり、地域の実態や参加者の目的に応じて様々なスポーツに親しむ活動を行っています。そのうち小中学生を対象とした定期的な活動を行っているクラブは22あり、さらにその中の13のクラブが県内大会等へ参加して、競技スポーツへつながる活動を行っています。



③企業スポーツ（プロ・アマチュア）

企業・チーム名	主な活動内容等
株式会社バンダイナムコ 島根スサノオマジック ◇島根スサノオマジック （バスケットボール）	B リーグ B2 2016-2017 西地区 1 位 B1 へ昇格 B1 2017-2018 西地区 6 位 B2 へ降格 B2 2018-2019 西地区 2 位 ワイルドカード 1 位 B1 へ昇格 B1 2019-2020 西地区 6 位 B1 へ残留
山陰合同銀行 ◇バドミントン部 （バドミントン）	2017 S/J リーグ 6 位（8 チーム中） 2018 S/J リーグ 6 位（10 チーム中） 全日本総合選手権大会 シングルス 3 位（漆崎） 全日本社会人選手権大会 シングルス 3 位（漆崎） 2019 S/J リーグ 7 位（10 チーム中） 第 74 回国民体育大会 ベスト 16 全日本社会人選手権大会 ベスト 8（橋詰）
松江シティ FC 株式会社 ◇松江シティ FC （サッカー）	2018 第 73 回国民体育大会 5 位 全日本社会人選手権大会 1 位 2019 日本フットボールリーグ 15 位（16 チーム中）
中筋グループ（中筋組、まる なか建設他） ◇中筋組 （軟式野球）	1999 西日本選手権大会 3 位 2002 第 57 回国民体育大会 5 位 2006 西日本選手権大会 3 位 2013 西日本選手権大会 3 位
特定非営利活動法人 ディオッサスポーツクラブ ◇ディオッサ出雲 FC （サッカー）	2019 中国女子サッカーリーグ 1 部 1 位
Selrio 島根 （ホッケー）	2017 日本リーグ 2 部 4 位（6 チーム中） 第 72 回国民体育大会 3 位 2018 日本リーグ 2 部 3 位（6 チーム中） 第 73 回国民体育大会 5 位 2019 日本リーグ 2 部 6 位（8 チーム中）

過去にはソフトボールの三洋電機やホシザキ電機、バレーボールの日立金属安来、軟式野球の出雲市信用組合など全国レベルの実業団が活躍していましたが、現在では企業の経営方針等により休部や廃部となり、複数の企業で一つのチームや選手を支える形態が増えてきています。

(6) 公認スポーツ指導者の状況

【競技・資格別登録者数（島根県 2020/3/31現在）】

(人)

競技(種別)	資格		コーチ1	コーチ2	コーチ3	コーチ4	合計
	資格	資格					
1 陸上競技			24	0	7	3	34
2 水泳			82	9	24	8	123
3 サッカー			257	-	41	12	310
4 スキー			7	14	0	0	21
5 テニス			39	25	6	4	74
6 ボート			4	0	7	0	11
7 ホッケー			0	0	9	2	11
8 ボクシング			-	-	5	0	5
9 バレーボール			257	12	6	3	278
10	体操	体操競技	0	0	8	0	8
11		新体操	0	0	2	0	2
12		トランポリン	0	0	1	-	1
13 バスケットボール			185	-	12	0	197
14 スケート			4	-	1	0	5
15 レスリング			3	-	0	1	4
16 セーリング			2	1	1	0	4
17 ウエイトリフティング			2	-	3	0	5
18 ハンドボール			10	0	2	0	12
19 自転車競技			4	-	5	0	9
20 ソフトテニス			31	6	6	0	43
21 卓球			3	3	19	3	28
22 軟式野球			66	-	2	-	68
23 相撲			8	-	0	-	8
24 馬術			1	-	3	0	4
25 柔道			4	-	6	-	10
26 ソフトボール			128	2	2	0	132
27 フェンシング			10	-	2	0	12
28 バドミントン			33	0	2	0	35
29 弓道			50	1	1	-	52
30 ライフル射撃			0	0	1	1	2
31 剣道			24	1	-	-	25
32 ラグビーフットボール			9	-	8	-	17
33 山岳・スポーツ	山岳		0	2	0	0	2
34 ライミング	スポーツライミング		6	1	0	-	7
35 カヌー			2	0	3	0	5
36 アーチェリー			8	0	0	-	8
37 空手道			11	4	2	1	18
38 アイスホッケー			3	-	0	-	3
39 銃剣道			16	0	-	-	16
40 クレー射撃			6	-	-	-	6
41 なぎなた			9	1	1	0	11
42 ボウリング			8	0	1	0	9
43 トライアスロン			5	-	-	-	5
44 ゴルフ			5	-	0	0	5
合計			1,326	82	199	38	1,645

*同一資格で異なる競技を有する場合にはそれぞれの競技に1人分を計上。

*:「-」はカリキュラムなし、養成を行っていない資格・競技。

(人)

メディカル・ コンディショニング資格	アスレティックトレーナー	18
	スポーツドクター	51
	スポーツデンティスト	6
	スポーツ栄養士	1
合計		76

(注)

[コーチ1]

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活等でのコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供するための資格

[コーチ2]

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等の監督やヘッドコーチ等の責任者として、安全で効果的な活動を提供するとともに、指導計画を構築、実行、評価し監督することと併せて、コーチ間の関わり及び成長を支援するための資格

[コーチ3]

トップリーグ・実業団等でコーチングスタッフとして、ブロック及び全国大会レベルのプレーヤー・チームに対して競技力向上を目的としてコーチングを行うための資格

[コーチ4]

トップリーグ・実業団・ナショナルレベル等のコーチングスタッフとして、国際大会レベルのプレーヤー・チームに対して競技力向上を目的としたコーチングを行うための資格

(資料提供：公益財団法人島根県体育協会)

国民体育大会に参加する監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく、公認指導者資格を有する必要があります。監督が指導者資格を有していない場合や有効期限切れの場合は国体に出場することができません。

なお、今後、本部役員に公認アスレティックトレーナーの帯同が義務づけられているので、計画的にアスレティックトレーナーを養成することが必要となってきます。

第3章 競技力向上に向けた具体的な取組

1 取り組むべき4つの柱

区 分	方 向 性	具体的な取組
(1) 組織体制の整備・充実	競技力向上を効果的に進めるために必要な組織の整備・充実と関係諸団体との連携強化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・組織体制の整備への支援 ・競技団体の強化計画策定支援及び定期的な事業評価 ・関係団体等との連携強化
(2) 選手の発掘・育成・強化	第84回国民スポーツ大会で主力となる少年選手の発掘・育成・強化と成年選手の確保・強化を図ります。	<p>《少年種別》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアアスリートの発掘 ・クラブアスリート（社会体育）の育成と強化 ・中学生・高校生アスリートの育成と強化 ・合同練習会等の実施 ・選手強化に関する部活動と社会体育の協働 ・魅力ある練習環境づくり ・女子選手の発掘・育成・強化 <p>《成年種別》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年種別選手・チームの強化指定 ・企業への協力依頼と支援 ・高専・大学における運動部活動の活性化に向けた支援 ・雇用の創出 ・ふるさと選手への支援 ・女性アスリートの支援
(3) 指導者の養成・資質の向上	指導者の養成及び資質の向上や一貫指導体制の構築など、計画的・継続的な指導体制の確立を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な指導者を招請した研修会の開催 ・県内指導者の研修派遣の実施 ・競技間の交流 ・一貫指導体制の構築 ・アドバイザーコーチの活用 ・雇用の創出 ・学校部活動での指導者の重点配置と地域スポーツ指導者の協力 ・資格取得の促進
(4) 選手・指導者を支える環境整備	競技力向上を円滑に進めるために、練習環境の整備や選手のサポート体制の充実を図るとともに、積極的な広報活動に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・競技用具の整備 ・施設・設備の利用改善 ・スポーツ医科学分野におけるサポーターの養成 ・マルチサポート体制の充実 ・スポーツテクノロジーの活用 ・広報活動の充実 ・選手・指導者が活動しやすい雰囲気づくりとサポート体制の整備 ・魅力ある練習環境づくり ・補償体制の充実

2 具体的な競技力向上対策

(1) 組織体制の整備・充実

現状・課題	<p>①競技団体の中には、連盟・協会の会員数が少なく、特定のスタッフに業務が集中するなど、組織や財政基盤が弱く積極的な普及・強化活動が困難な団体もある。</p> <p>②国民スポーツ大会に向けて、長期的なビジョンに基づいた強化計画の立案に苦慮している競技団体もある。</p> <p>③競技力向上に携わる関係諸団体の役割を明確にするとともに、相互に協力し合うシステムづくりが必要である。</p>
-------	--



具体的な取組	<p>①組織体制づくりの支援</p> <p>競技団体が組織的・計画的に強化活動に集中して取り組むことが出来るよう、運営体制及び普及強化体制を整備し、競技力向上を推進する機能的な組織の体制づくりを支援する。</p> <p>②競技団体の強化計画策定支援及び定期的な事業評価</p> <p>中央競技団体や先催県の関係者を講師として招請するなど、強化計画策定作業がスムーズに行われるよう支援するとともに、強化計画に基づいて行われる強化活動の進捗状況や成果・課題等を把握・評価して競技団体への指導・助言を行う。</p> <p>③関係団体等との連携強化</p> <p>競技団体や関係団体が相互に連携して行う強化活動を支援する。また、会場地市町村と競技団体等が連携した普及強化活動を支援する。</p>
--------	---

(2) 選手の発掘・育成・強化

《少年種別》

現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ①選手の発掘に繋がる取組が十分でない競技もある。 ②中学校・高等学校における全国大会で入賞する競技が毎年ほぼ同じであり、その競技の数も少ない。 ③選手強化の大きな柱である、学校部活動に関する様々な改革により、今後の強化方針について見直す必要がある。 ④優秀な選手が県外に流出する傾向にある。 ⑤女子選手の活躍が男子より少ない。
-------	---



具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ①ジュニアアスリートの発掘 <ul style="list-style-type: none"> 県内での普及が進んでいない競技を中心に、将来の選手の確保につなげるための体験教室を開催し、子どもたちが様々なスポーツに触れる機会を設け、各競技団体等が行うジュニア教室の開催を支援する。 また、トップアスリートを招いた体験会を行う等、小学生の競技スポーツに対する興味付けや関心を高める取組を行う。 さらに、1つの競技に絞るのではなく、様々な競技の中から自分の可能性や適正に合った競技を選択して取り組むことができるような仕組みを整える。 ②-1 クラブアスリート（社会体育）の育成と強化 <ul style="list-style-type: none"> 部活動ではなく社会体育として活動している競技について、その強化活動を支援するとともに、強化活動が円滑に行われるように環境を整備する。 ②-2 中学生・高校生アスリートの育成と強化 <ul style="list-style-type: none"> 県内の優秀な中学生の選抜チームの県外遠征などを支援する。また、全国大会で多くの競技が活躍できるように、高校運動部活動の強化指定（以下重点校）を拡充するなどして、強化活動を支援する。 また、重点校等に県内外の優秀選手が集まりやすくなるように、関係機関の意見も十分踏まえ、現行の入試制度の見直しを検討する等、高校生の競技力向上につながる取組を進める。 ②-3 合同練習会等の実施 <ul style="list-style-type: none"> 競技の枠を超えて国体強化指定選手が一堂に集まる合同練習会等を開催し、他競技の選手等と交流を深め、「チーム島根」の一員として国民スポーツ大会へ向けた意識を高める。 ③ 選手強化に関する部活動と社会体育の協働 <ul style="list-style-type: none"> 学校の部活動に加えて、地域のスポーツクラブなど社会体育での強化活動を併せて行うなど、部活動と社会体育が一体となった強化活動に取り組む。 ④ 魅力ある練習環境づくり <ul style="list-style-type: none"> 重点校等の強化の拠点における指導体制や練習環境を充実するとともに、重点校を中心とした周辺地域の中学校との連携を強化するなど、魅力ある拠点づくりを進める。 ⑤女子選手の発掘・育成・強化 <ul style="list-style-type: none"> ジュニアの段階から女子選手の発掘・確保に努め、女子選手の活躍拡大を図る。
--------	---

《成年種別》

現状・課題	<p>①成年の競技人口が少年に比べて少なく、国民体育大会入賞競技数も少年に比べて少ない。</p> <p>②成年選手の受け入れ先となる就職先が県内には少なく、希望があっても戻ってこられない事例がある。</p> <p>③成年女子選手の競技人口が少なく、活躍も他種別に比較して少ない。</p>
-------	---



具体的な取組	<p>①-1 成年種別選手・チームの強化指定 国民スポーツ大会で活躍が期待できる選手・クラブチーム・企業チーム・大学運動部等を強化指定して支援する。</p> <p>①-2 企業への協力依頼と支援 強化指定選手や強化指定チームが所属する企業に対して、強化活動が円滑に行われるように協力依頼するとともに、企業の強化活動を支援する。</p> <p>①-3 高専・大学における運動部活動の活性化に向けた支援 県内の高専・大学に対し、選手の受け皿となる運動部活動の活性化や新設の検討を促すとともに、その強化活動を支援する。</p> <p>②-1 雇用の創出 競技を続けながら働くことができるよう、官公庁や教育機関等における雇用の創出や促進を図る。 また、アスリートの活動に理解を示す民間企業等に対して選手の受け入れ協力を依頼する。</p> <p>②-2 ふるさと選手への支援 ふるさと選手制度を活用して島根県代表として国民スポーツ大会に出場する選手の強化を支援する。 また各競技団体において、県外へ進学や就職した選手の動向把握に努め、所属する学校や企業等へ「ふるさと選手制度」の協力依頼を早期の段階から行う。</p> <p>③ 女性アスリートの支援 女性アスリートが直面しやすい特有の課題を考慮したトレーニングや強化練習を進めるために、専門家による研修会や相談会などを開催し、よりよい環境で女性アスリートが競技を継続できるよう支援する。</p>
--------	---

(3) 指導者の養成・資質の向上

現状・課題	<p>①優秀な選手を育成・強化するための高い指導力を有する指導者が不足している。</p> <p>②指導者として即戦力となりうる人材の確保が必要な競技がある。</p> <p>③公立学校の教員の人事異動ルールにより、腰を据えた長期的な指導が困難な場合がある。</p> <p>④指導者のライセンス取得のための十分な財源が競技団体にない。</p>
-------	---



具体的な取組	<p>①-1 優秀な指導者を招請した研修会の開催 優秀な指導者を招請し、県内の指導者がトップレベルの指導法を学ぶための各競技団体研修会開催を支援する。</p> <p>①-2 県内指導者の研修派遣の実施 県内指導者を中央競技団体等が実施する研修会に派遣し、最新の指導法や最先端の情報を会得することにより、指導者の資質向上に役立てる。</p> <p>①-3 競技間の交流 指導者同士が競技の枠を超えて情報交換できるよう、技術や戦術、トレーニング方法等を競技間で共有するための交流会等を企画・開催する。</p> <p>①-4 一貫指導体制の構築 優秀な選手を育成するために、各競技団体の実態に応じた普及から強化までの一貫指導体制の構築を支援する。</p> <p>②-1 アドバイザーコーチの活用 全国トップレベルのコーチ（プロを含む）をアドバイザーとして招請し、強化のポイント、試合時の戦術、採点競技のポイント、大会までの戦略等についてアドバイスを受け、ジュニアから成年までの指導体制の充実を図る。</p> <p>②-2 雇用の創出 指導者として即戦力となり得る人材の官公庁や民間企業、私立学校等における雇用の促進を図る。 また、学校で指導にあたる教員の採用に関しては、関係機関の意見を踏まえた上で、受験者の競技実績や指導実績を考慮した採用選考の導入を検討するなど、優れた人材の確保に取り組む。</p> <p>③ 学校部活動での指導者の重点配置と地域スポーツ指導者の協力 計画的・継続的に選手を育成するため、重点校等に対する教員の長期配置や、専門性の高い教員の配置など、長期的な展望に立った指導者配置に取り組む。 さらに、専門性の高い顧問が複数の学校の生徒を指導することや、地域のスポーツ指導者等の協力を促進することなど、部活動での強化について関係機関と協力して検討を進める。</p> <p>④ 資格取得の促進 国民スポーツ大会の監督に義務づけられている日本スポーツ協会公認の資格取得を支援する。</p>
--------	---

(4) 選手・指導者を支える環境整備

現状・課題	<p>①普及活動や強化活動に必要な競技用具が高額のため、個人や競技団体では購入することが困難な事例がある。</p> <p>②練習場の確保が難しかったり、施設使用料が高額であるため財源の捻出に苦慮するなど、十分な練習環境が整わない競技もある。</p> <p>③選手や指導者を医科学の分野から多面的に支援するための体制の充実や、機材の活用が必要である。</p> <p>④本県を代表して大会に臨む選手や監督を、県民あげて応援する機運の醸成を図る必要がある。</p>
-------	---



具体的な取組	<p>①競技用具の整備 競技団体等の普及・強化活動がより効果的に行えるよう、競技用具の計画的な整備に努める。</p> <p>②施設・設備の利用改善 円滑で効果的な強化活動を推進するため、強化の拠点となる施設の設置者と連携を図りながら、利便性の改善、施設・設備の改善や使用料の支援を行う。</p> <p>③-1 スポーツ医科学分野におけるサポーターの養成 選手を支えるアスレティックトレーナーやスポーツ栄養士などを専門の研修会等に派遣し、資格の取得やスキルアップを図る。</p> <p>③-2 マルチサポート体制の充実 国民体育大会をはじめとする各種大会へトレーナー等を派遣し、選手のパフォーマンスを最大限に引き出すための体制の充実を図る。</p> <p>③-3 スポーツテクノロジーの活用 アスリートの身体能力を測定できる専門機関やスポーツパフォーマンスを分析できる機器等を活用して、選手やチームの客観的データをもとにゲーム分析やパフォーマンス評価を行い、強化活動に役立てる。</p> <p>④広報活動の充実 新聞・テレビ等のマスメディアとの連携や SNS 等の媒体を通じて、国民スポーツ大会をはじめ、スポーツに関する選手の活躍を県民に発信し、国民スポーツ大会開催に向け機運の醸成を図る。</p> <p>・選手・指導者が活動しやすい雰囲気づくりとサポート体制の整備 選手や指導者が強化活動に集中して取り組むことができるよう、大会等への参加の際の配慮について関係者へ理解を求めるとともに、そのための環境を働きかける。</p> <p>・魅力ある練習環境づくり（再掲） 重点校等の強化の拠点における指導体制や練習環境を充実するとともに、重点校を中心とした周辺地域の中学校との連携を強化するなど、魅力ある拠点づくりを進める。</p> <p>・補償体制の充実 指導者や選手が安心して強化活動に専念できるよう、傷害保険や賠償責任保険等の制度周知や広報を行い、スポーツ安全保険等への加入を促進する。</p>
--------	--

第4章 競技力向上基本計画の推進体制

1 推進体制の整備

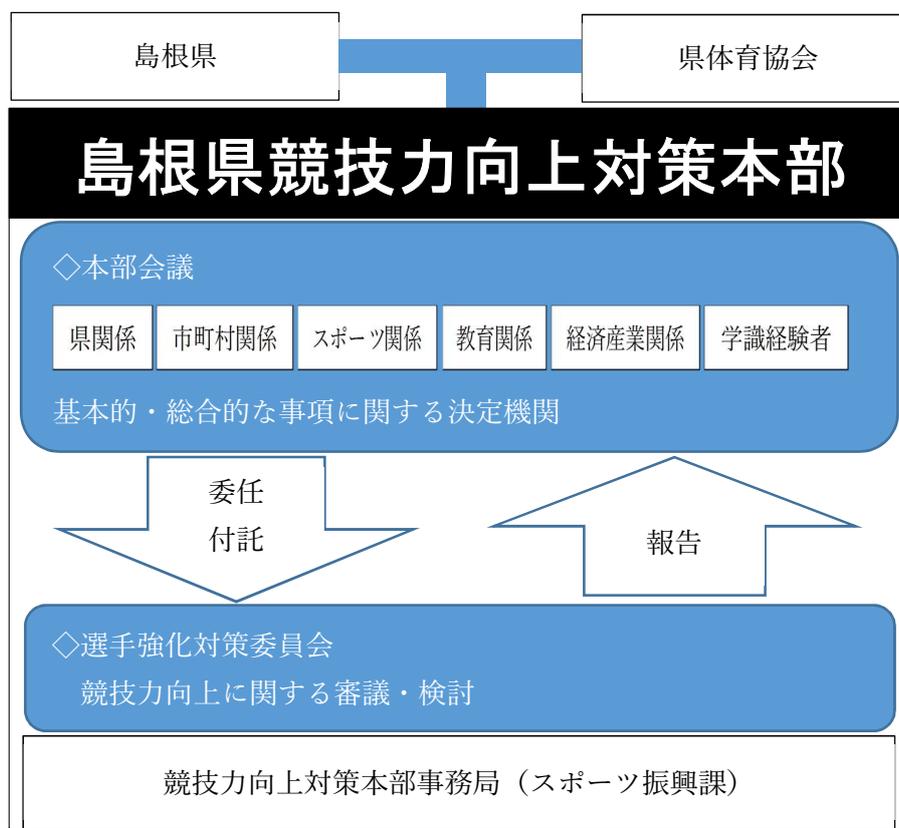
目標達成に向けて競技力向上対策事業を進めていくために、「競技力向上対策本部」を中心に、県体育協会、各競技団体をはじめ各関係団体など、幅広い関係者が密接に連携・協力して「チームしまね」体制で取り組む。

(1) 本部会議

副知事を本部長とする、競技力向上対策の包括的な事項の決定・推進機関

(2) 選手強化対策委員会

本部会議の下部機関として設置し、競技力向上対策についての具体的な取組について検討・立案



2 事業実施計画の作成と進捗状況管理

基本計画の事業の推進にあたっては、年度ごとに実施計画を作成し計画の具現化を図り、計画的、着実な事業・取組を実施する。

また、事業の進捗状況や成果・課題、取り巻く環境の変化等を適時把握し、評価・検証することにより、次年度の計画や事業等の実施に反映する。

3 各競技団体の作成する強化計画の進捗状況管理

各競技団体は、目標とその実現のための方策を具体的に示した計画を作成することとし、対策本部はその活動状況などを総括的に検証するとともに、評価して指導・助言を行う。